

名正運輸

加藤 新一社長

愛知県飛鳥に本社を構える名正運輸は、輸送事業とともに大手食品スーパーの物流センター事業を全国18箇所に展開している。特に、売上構成比の8割が食品、日用品を扱う流通業との取引によるもので、中部エリアを中心に関東、関西の製販3県と堅固なつながりを持っている。物流の品質を問われる昨今、「選ばれる会社」になるためにさらに高い水準を求める同社の加藤新一社長は、今後の展望について語った。

(横山卓一)

加藤 現在私が乾物卸の
物産をトラック・白から効
めて以来、加工食品の提供
をメインに取組んでいる。食
料と衣料を分けて、衣料は
卸として取り扱っている。食
料は、大手卸と小売店とを
ターンのようなものを
開始し、そして他社に委託
して多品種・小ロットの卸
を受けた。その成長のボ
トとして入った。感じ
た。その後、食品ア
のセブチン・代が通
めた約20年、から流通
品と、でも、市場も
きたかと思えます。物産
し事業を分けて、い
受けさせて、ないで、さ
ま、まな前にはしてさ

物流センターの開発・運営で成長



ハウが育ちました。また、小売業さんにも多大なご指導をいただきました。食品社としては物流センター事業を手掛けることで、実運

物流会社の社会貢献は「安全」

の七ターを手掛けること
で、新しい品質賞のノウ
ハウも蓄めてきた。思いま
す。中の売上構成では食
品を中心として、調味料、8
割を占め、食品原料の製配
結果も出ていた。

――物流業界の状況は
加藤 国土交通省のデー
タによくとらえてみると、
郵便取扱いは約1兆円、現
在、運送料は6万5000
ト、それに、その0.600
トの増えています。そ

送付でなければ、付加価値
を出せなければ、収入は減
る。逆に、実運送を伴わず
に郵便セブン（衆生月見月
に開設するセブン郵便所）
は七ター運送所の役割を
行っている。一台当たりの
生産性を上げるためには、不
可避です。物流セブン事業
を行つて、お客さまさまに
に口コソと盛賞を大いに
している。非常に大いに
メリットがあります。それ
ぞれの取組むべきは、その
輸配送の目的を特定する
うえで、必要といふべき

「たゞ一他社に任せ、物彼は
 知りま、小葉がさか非非に
 物が見えたら立ち
 かたなるの、私も
 おきまの業や機を
 ついてるに、過
 はあまぜ、言が各
 か相をいける
 は基本的自便を
 物とタについ
 社用につい
 り、都て、リ
 々を、と計の品
 を備けに、思
 ります。
 一、直近の業
 加藤 前期は増収減益
 は、
 本社に新設を要し、新設
 ンタ（愛知興業社）

[illegible]

今頃は前年比は、で狸して3年、内蔵の投資をアップしました。基幹業務システム「コア・システム」の

四282台のうち235台がパワー

とならぬ。ところが、当然のことながら、そのうちの一部は、当社のお客さまである外資系企業や卸主自体も、価格の暴落で口を塞ぐかも知れないと懸念されている。

また、今までは、安全の確保に力を入れてきたのは、意味のあることだと思われている。今まで自己防衛的に行っていたものを対外的に開放したため、会社自体が引き込まれることになる。当然お客さまへのダメージにもなり得る。事故を起こさないといいながら、実際には、一般の方面から、トラックに狙われたとか、車間距離短縮とか、悪戯をしたなどともあります。運転手も驚くとか、そんなものはかつて天に誓えますが、自分

現在、十分整備の布陣でもあり、市制内だけでなく、近隣のラフターなどの仕立組もほぼ完全に近いといわれています。トラクターやドーザー、ローリーチャーターもかなり数の増強を行ってきた。また、基幹施設としてシンクイアクトシステムを導入し、全国において、誰もが通ずるような仕組みにした。18箇所もあるオリジナリでは、事業ですが、ルールを脱却して牙

交通道路
ISO39001
世界初取得

名正運輸は10月1日、道路交通安全マネジメントシステムの国際規格であるISO39001の認証を世界で初めて取得し、中止したISO39001は交通事故などを被害者の発生を食い止めるために定められた国際規格で、今回、認証取得前か交通安全全に対して積極的な取組みを行ってきた同社の山口嘉徳、木村暢祐、部長らに、取組に至った経緯や今後の方針を聞いた。

弱が交通事故でなくなっていることを踏まえて、国連が事故を撲滅する取組みやその国際規格ISO39001を作る動きがあることを知りました。日本におけ

まざまな方面に感謝して
ます。

◎「他社と何が違うか」
問われたとき、この1と
39001取得は選ばれ
企業判断材料になると

ら①SO取得に向けて動かし、まず、品質現物のQ9001・環境現物のS10407を取得して見ようとした。加えて、日本では雪害安全衛生生活システム(OSSAS)も取組むなど、四国規格取得で積極的に取り組んで来たが、残念ながら、交通事故、労災、設備に高質に関する部分とつながりて運用管理していませんが、やはり製造業向け表現形式であり、若干、社内での管理方法と無相なり

車輛統括部 山口 嘉公部長



その時に、国際的に交通事故が非常に多いこと、日本のように交通が発達して

社内の意識を高め交通事故ゼロへ

[illegible]

会社沿革

1965年	マツダ3輪車を55万円で購入。運送業を始める。
1966年	マツダEVA21車と三菱ふそう820型4車を購入。保有台数が3台になる
1969年	運送業の許可を届け、6月に名古屋市熱田区で会社を発足する。
1975年	アメリカの物流を視察、その新斬さに圧倒される。
1979年	名古屋市港区十一屋に物流センターを構築する。
1986年	名古屋市港区明正に本社事務所を新築する。
1989年	小牧営業所を開設
1994年	羽島営業所を開設
1995年	阪神・淡路大震災被災地に役員をはじめとする社員10人を派遣する。
2003年	春日井センター業務委託。 愛知県海部郡飛鳥村で新社屋兼物流センターの建築が始まる。
2004年	5月 新社屋物流センターが落成。
2005年	大阪センター業務委託。 静岡県植原センター業務委託。 デジタルタコグラフ全車装備完了。 GMカー全営業所で取得開始。
2006年	神奈川県川崎市磯西営業所を開設。
2008年	本社第2物流センターが落成。
2009年	名古屋南営業所を開設。
2010年	日本品質保証機構(JQA)によるISO9001、ISO14001を認証取得。
2011年	J-VACIによる情報セキュリティ(ISMS)を認証取得。 中部産業連盟によるプライバシーマークを認証取得。 日本品質保証機構(JQA)によるOHSAS18001を認証取得。
2012年	社長に加藤新一、会長に加藤正明が就任。 基幹業務にシンクライアントシステムを導入。 全車輻にドライブレコーダーを装着。 日本品質保証機構(JQA)による道路交通安全マネジメントシステム(ISO39001)を世界で初めて認証取得。